

【令和元年度 学校関係者評価委員】

委員	氏名	所属	役職
委員長	鎌田 佳奈美	摂南大学看護学部	学部長
委員	木下 昌美	特別養護老人ホーム ファヴォーレ	施設長
委員	松村 到	近畿大学医学部	学部長
委員	赤尾 幸恵	近畿大学病院	副病院長
委員	大西 晴江	近畿大学附属看護専門学校同窓会 礎	会長
委員	橋本 克己	株式会社近大アシスト	代表取締役社長

2019年度 近畿大学附属看護専門学校
学校評価

1.評価の概要と今後の課題

基準1. 教育理念・目的・育成人材像
<p>【評価の概要】</p> <p>近畿大学の教育理念に基づき、看護専門学校としての教育理念・目的・目標・卒業時の到達目標を掲げ、各学年の教育活動の機会ごとに学生への提示・浸透を図り、人材育成に注力している。高度医療を担う近畿大学病院の実習・研修は、教育を促進する学校としての特長であるため、実施内容を教育の特色として、具体的に可視化を図る必要がある。近畿大学病院以外の医療機関・施設等への就職者は新卒・既卒ともに一定数存在しており、地域のニーズに込えているといえるが、将来的な病院移転を視野においた教育構想が求められる。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域社会のニーズを反映したカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの構築・中・長期的学校運営構想の構築
基準2. 学校運営
<p>【評価の概要】</p> <p>学内の情報共有・意思決定機関として各種会議および委員会が設置され、毎年、運営方針として示されるアクションプランに基づき、活動計画の立案・遂行・評価は実行されている。しかし、委員会運用規程が明確でないため、各委員会が自立的にP D C Aサイクルを回しながら学校運営に関し、評価・課題抽出に取り組めるように委員会規程を早期に策定すべきである。</p> <p>情報管理では、学生用ポータルシステムやGメールシステムが、各種連絡・シラバス・アンケート・緊急時安否確認等において各種配信・双方向性通信ツールとして活用されている。業務面でも学内LAN、人事・教務管理システムが近畿大学専門部署のサポートにより技術・セキュリティ面で安定した運用が行われている。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・委員会規程の策定・中・長期的な学校運営構想を数値目標設定
基準3. 教育活動
<p>【評価の概要】</p> <p>教育目標に基づく到達目標を設定した上で毎学年末に学生による自己評価を実施し、評価結果を科目進度や教科外活動の修正等、カリキュラム小規模評価に反映しており、一定の活用を行っている。教員の教育活動に関しては研究面での活性化が望まれるが、年間を通して授業評価・授業研究や学内外の教育研修に取り組んでおり、教育力の質向上の努力がみられる。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・客観性のある実習評価方法の検討（ルーブリック評価の精度をより上げていく）・教員の教育力向上に向けた研修計画の立案

<p>基準4. 学修成果</p>
<p>【評価の概要】</p> <p>就職率は看護、助産学科ともほぼ100%である。卒業生の60～70%は近畿大学病院への就職であり、近畿大学病院では社会人基礎力を人事査定の一部としている。その結果を学修成果評価に用いることができるのではないかと。また別途、実習先での評価を依頼する必要がある。</p> <p>保健師・助産師学校への進学率は5%前後で、そのほとんどが当校の助産学科への内部進学である。</p> <p>就職活動への動機付けとしてはキャリア教育、就職関連講座等を行っている。</p> <p>国家試験対策は模試や模試解説などは予備校を活用。科目を限定し講座も実施している。そのほかは教員による強化講義、少人数制の学習指導を行っている。</p> <p>退学率は3年間平均1.9%、ストレート卒業率は3年間で平均89.5%となっている。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の就職先からの評価を元にした教育成果の把握 ・卒業生の専門・認定看護師取得や業績の把握方法についての検討
<p>基準5. 学生支援</p>
<p>【評価の概要】</p> <p>学習・進学・就職に関しては、教科外活動として学外の専門職の協力を得て国家試験対策講座や就職支援講座の開催、成績に基づく個別面談、生活・学習指導や学力強化プログラムを実施し、必要時に保護者への通知・連絡、2018年度より1・2年次に保護者説明を実施し、情報発信に努めている状況である。</p> <p>健康面では、専任教員による日常的な相談対応のほか、学校健診結果に基づく校医への相談や近畿大学病院の専門外来によるフォローアップ、病院の臨床心理士によるカウンセリングが受けられる支援体制が整備・活用されている。但し、相談内容が深刻化の傾向があり、対応困難事例が発生している点をふまえメンタルヘルスに関する相談窓口の充実を図る必要がある。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの派遣（非常勤） ・学習・就職困難学生への個別対応体制の強化 ・webシステムを活用した保護者への情報発信や面談の実施
<p>基準6. 教育環境</p>
<p>【評価の概要】</p> <p>指定規則に基づき施設・設備・教育用具等を配備・設置し、定期的に点検し修繕・補充などを行っている。</p> <p>学外実習の実施方法については、臨地実習要項に総括的な内容を掲載するとともに、実習の領域に応じて必要なマニュアルを要項として整備している。</p> <p>防災に対応する責任者を定め、防災訓練を毎年計画的に実施している。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校敷地内に休憩・食事のためのスペース設置を検討する。

<p>基準7. 学生の募集と受入れ</p> <p>【評価の概要】 進学説明会・高校説明会への参加・オープンキャンパスを実施し、学生募集を積極的に行っている。 入学選考および学納金の納入は適切に対応している。</p> <p>【今後の課題】 ・推薦入試・一般入試ごとによる入学後の成績フォローと入試成績順位による学生成績の変遷について検討する。</p>
<p>基準8. 財務</p> <p>【評価の概要】 財務基盤を安定させるために中長期計画を策定している。 学園の経理規程に則り適切に予算執行のうえ、財務帳票を作成し、ホームページに財務情報を公開している。</p> <p>【今後の課題】 ・志願者数を上げ収入を増加する必要がある。</p>
<p>基準9. 法令等の遵守</p> <p>【評価の概要】 看護師養成所運営ガイドラインに則り、教員数の確保、環境整備を努めており、学校の教育・運営に関する情報は教育要項ならびにホームページに公開されている。権利擁護は近畿大学ハラスメント防止ガイドラインに基づき、学生への周知ならびに対応が図られている。但し、臨地実習やソーシャルネットワーク使用における個人情報保護ならびにハラスメント被害防止に対する認識には個人差がみられ、継続的な指導の強化・徹底が必要である。また、発生時の対応のために関係者会議を頻回に実施している状況があるため、迅速な対応のために手順の整備が望まれる。</p> <p>【今後の課題】 ・ハラスメント対応チャートの作成 ・教育要項ならびに臨地実習要項への法令遵守関連対応方法の掲載</p>
<p>基準10. 社会貢献・地域貢献</p> <p>【評価の概要】 行政や高校など要請があれば対応しているが、学校としてのボランティア活動や社会貢献活動は地域清掃程度。法人内では教室や教材の貸し出し、教員の派遣などを実施しているが、地域にまで広がっていない。 また学生個人のボランティア活動についても把握が十分でない。</p> <p>【今後の課題】 ・学生の主体的なボランティア活動に向けての制度検討（表彰制度、ポートフォリオでの可視化など）。</p>

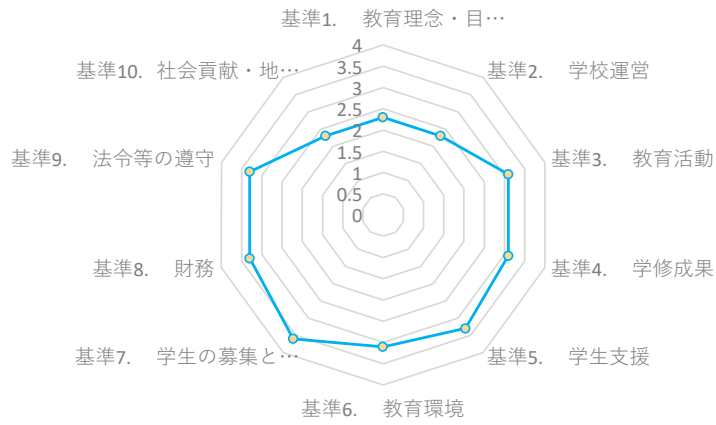
2. 評価結果

評価は次のとおり 数値化した。

適切：4 大体適切：3 やや不適切：2 不適切：1

項目	学校評価平均値	自己評価平均値
基準1. 教育理念・目的・育成人材像	2.3	3.3
基準2. 学校運営	2.3	3.2
基準3. 教育活動	3.1	3.3
基準4. 学修成果	3.1	3.1
基準5. 学生支援	3.3	3.1
基準6. 教育環境	3.1	3.0
基準7. 学生の募集と受入れ	3.6	3.6
基準8. 財務	3.3	3.8
基準9. 法令等の遵守	3.3	2.6
基準10. 社会貢献・地位貢献	2.3	1.6

学校評価



自己評価

